

市長定例記者会見報告事項概要

令和5年11月24日(金) 午後2時00分～

1. 窓口音声表示システムについて

- このたび本市では、耳の不自由な方が市役所に来られた際に、職員と円滑なコミュニケーションを行えるように、障害福祉課の窓口に「音声表示システム」を設置することとした。
- このシステムは、日本語を含め、20か国語に対応して、話した言葉を瞬時に文字にして表示するため、正確に情報をお伝えすることができる。
- 県内では、阿武町が導入済みで、市では初めてであると伺っている。
- これからも、デジタル技術を活用して、市民サービスの向上につなげていきたいと考えている。

2. 令和5年12月市議会定例会の議案概要について

- このたびの議案は18件、選任が3件、報告が11件ある。

< 12月補正予算(案) >

- 一般会計の補正は、議案第74号、議案第75号の2つの議案に分けており、補正予算総額は、約14億9,200万円となっている。

(1) 議案第74号

①非課税世帯生活応援事業

- 国の補正予算に基づき、住民税均等割が非課税の世帯に対し、1世帯当たり7万円を給付するもので、速やかに給付するため、10億7,000万円を計上している。

②人事院勧告に基づく職員給与費等の引き上げ

- 一般会計において、国の人事院勧告に準じる措置として、9,400万

円を計上している。

(2) 議案第75号

①市民生活応援事業（プレミアム付商品券発行）

- 商工会議所と連携し、物価高騰の影響を受ける市民生活を幅広く応援するため、プレミアム率20%の商品券を発行することとし、1億9,000万円を計上している。

②子育て世帯給食費等支援事業

- 当初予算に、給食費の食材費増額分の支援計上しているが、高騰が続いていることを受け、家計への負担が大きい年度末の子育て世帯の負担を軽減するため、中学生以下の全ての子どもを対象に、3月分の給食費相当として1人当たり5千円を支給することとし、9,000万円を計上している。
- この5千円という額は、給食費の食材費増額分の年間額と同額である。

③夜間タクシー運行支援事業の延長

- 現在12月末までとして実施している深夜帯のタクシー運行の実証期間を、3月末まで延長することとし、300万円を計上している。

④市道修景事業

- 国の補正予算を活用し、市道新橋阿弥陀寺線の毛利氏庭園入口から佐波神社前までの区間の修景舗装工事を、前倒して実施することとし、4,500万円を計上している。

⑤（債務負担行為）防府市スポーツセンター武道場・防府市中高齢者福祉センター 体育室 空調設備 整備事業

- キリンレモンスタジアム武道場及びサンライフ防府体育室の熱中症対策として、令和6年度中には空調設備の整備を行うため、1億8,000万円の債務負担行為を設定している。

⑥ (債務負担行為) 防府市農業公社の移転整備に係る借入金の償還に対する補助金

- 防府市農業公社が山口県の「農林業の知と技の拠点」と連携し、一層の機能強化が図れるよう、同公社を「農林業の知と技の拠点」隣接地へ移転することとし、その移転整備に係る借入金の償還に対する補助を行うため、1億5,000万円の債務負担行為を設定している。
- なお、同公社の移転については、9月議会にて申し述べさせていただいている。

(3) 議案第76号から議案第80号まで

- 5つの特別会計において、いずれも人事院勧告に基づく職員給与費等の引上げを行っている。

<議案等の概要>

(1) 議案第81号

- 防府市立華浦小学校南校舎長寿命化改良工事の工事請負契約を締結しようとするものである。

(2) 議案第86号

- 非常勤職員の報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例等中改正については、人事院勧告に準じ、一般職の職員については、給料月額を本年4月1日に遡って引上げ、期末手当、勤勉手当について、その支給割合を引き上げるとともに、議員及び特別職の期末手当の支給割合の引き上げ等を行うため、所要の改正を行うものである。

(3) 議案第87号

- 市長等の給与に関する条例中改正については、本市職員の収賄事件に関し、管理監督責任として、12月の市長の給料月額を10分の3、上下水道事業管理者の給料月額を10分の1減額しようとするものである。

(4) 選任

- 防府市監査委員、防府市公平委員会委員 及び 防府市固定資産評価審査委員会委員 の選任について、それぞれ議会の同意を求めるものである。

(5) 報告

- 報告第31号 有限会社野島海運の経営状況報告についてのほか、7件の専決処分の報告、2件の契約の報告、1件の変更契約についての報告である。

3. 防府読売マラソン大会の経済効果について

- 今年は、川内優輝選手をはじめ、6名の招待選手を迎え、3,101名のランナーが師走の防府路を駆け抜ける。
- 川内優輝選手は13回連続の出場で、川内選手自身も、「13回連続出場
で優勝を目指す」と意気込みを発信しておられ、私も期待している。
- また、昨年優勝した中村祐紀選手も、連覇を目指し出場するとのことで、
大変嬉しく思っている。
- 今大会では、出場記念の「オリジナル名刺」を作成した。お一人お一人の
参加選手の名前とゼッケン番号を印刷し、裏面には、毛利氏庭園と防府
天満宮をデザインしたこの名刺を、今大会に出場されるすべての選手に
お届けしている。
- また、大会は参加資格が4時間以内であり、この名刺には、「参加資格4
時間以内」と明記してある。
- 全国から集うランナーの皆さんに、この名刺で防府をしっかりと PR し
ていただきたいと思います。
- そして、今大会のスターターは、防府が誇る長距離ランナー、元カネボ
ウ陸上部監督の伊藤国光さんが務められる。「情報ほうふ」12月号には、

伊藤元監督のインタビュー記事が掲載されている。防府読売マラソンへの熱い思いを語っていただいている。

- いよいよ12月3日（日）10時40分に、ドラマがスタートする。
- そして、本日は「防府読売マラソン大会の経済効果」について発表させていただく。
- 防府読売マラソン大会は、昨年、日本陸連JMCのG1にグレードアップしたことで、全国から注目が集まった。
- テレビや新聞に大会及び防府市が大きく取り上げられ、多くの市民の皆様から「大きなインパクトがあったのではないか」などのお問合せをいただいたため、このたび、一般財団法人山口経済研究所にお願いし、その露出量の把握と金額換算を算出いただいた。
- 算出では、テレビ、新聞、Webの広告費に換算し、約15億円に相当するという結果であった。
- G1になったことで、テレビの全国放送で取り上げられたこともあり、大きな結果になったと思われる。開催市として大変嬉しく思っている。